

2学期 終業式講話

皆さんこんにちは。

新型コロナウイルスの影響で例年より幾分早くスタートした2学期も、今日で終わります。そして、2020年、令和2年も、残すところ数日となりました。

さて、この季節になると思い出す俳句があります。正岡子規の門下で、夏目漱石とも親交のあったホトトギス派の俳人 高浜虚子の次の句です。

「去年(こそ)今年貫く棒の如きもの」

季語は「去年今年」で、季節は「新年」です。「去年今年と二つの年をまたぐ新年に、一本の、固く、真っ直ぐな、棒のようなものが 私の心の中にある」といった解釈になるのでしょうか。去年今年と、つまり行く年も来る年も、変わらず貫く棒のようなものとは、何なのか？作者個人の「信念」や「目標」と捉えることができるかもしれません。

40年ほど前の私は、高校を卒業して1年間浪人生活を送っていましたが、その際、ぼんやりとではあるが教員になりたいという夢がありました。しかし、それに向かってたいした努力もせず、日々漫然と過ごしていたような気がしますが、皆さんにはそうなってほしくはないと思います。こうした経験からぜひ皆さんに、この季節取り組んでほしいことをお話して、今年最後の講話とします。

それは、月並みかもしれませんが、年頭に当たっての目標設定です。

3年生のほとんどの皆さんは、改めて設定する必要はありません。まさに「去年今年と貫く棒の如」く、各自の目標に向かって邁進してください。

大学生や専門学校生になることが目的なのではなく、なってからの有りようが大事なのですが、今はなることが大事と思って、最後のひと踏ん張り頑張ってください。

近代日本の黎明期を駆け抜けた吉田松陰がこんな言葉を残しています。

「夢なき者に理想なし。

理想なき者に計画なし。

計画なき者に実行なし。

実行なき者に成功なし。

故に夢なき者に成功なし」と。

そうそう、次の一万円札に描かれる渋沢栄一も同じようなことを述べていますので皆さんググってみてください。

「夢」や「理想」は、大きな目標として捉えられることができると思います。次にくる「計画」は、より緻密な、具体的目標と考えることができます。それらがあって、初めて「夢」や「理想」は現実のものとなります。自明といえば、自明のことですが、ぜひこの年頭に取り組んでほしいと思っています。

それでは、皆さん、良いお年を。